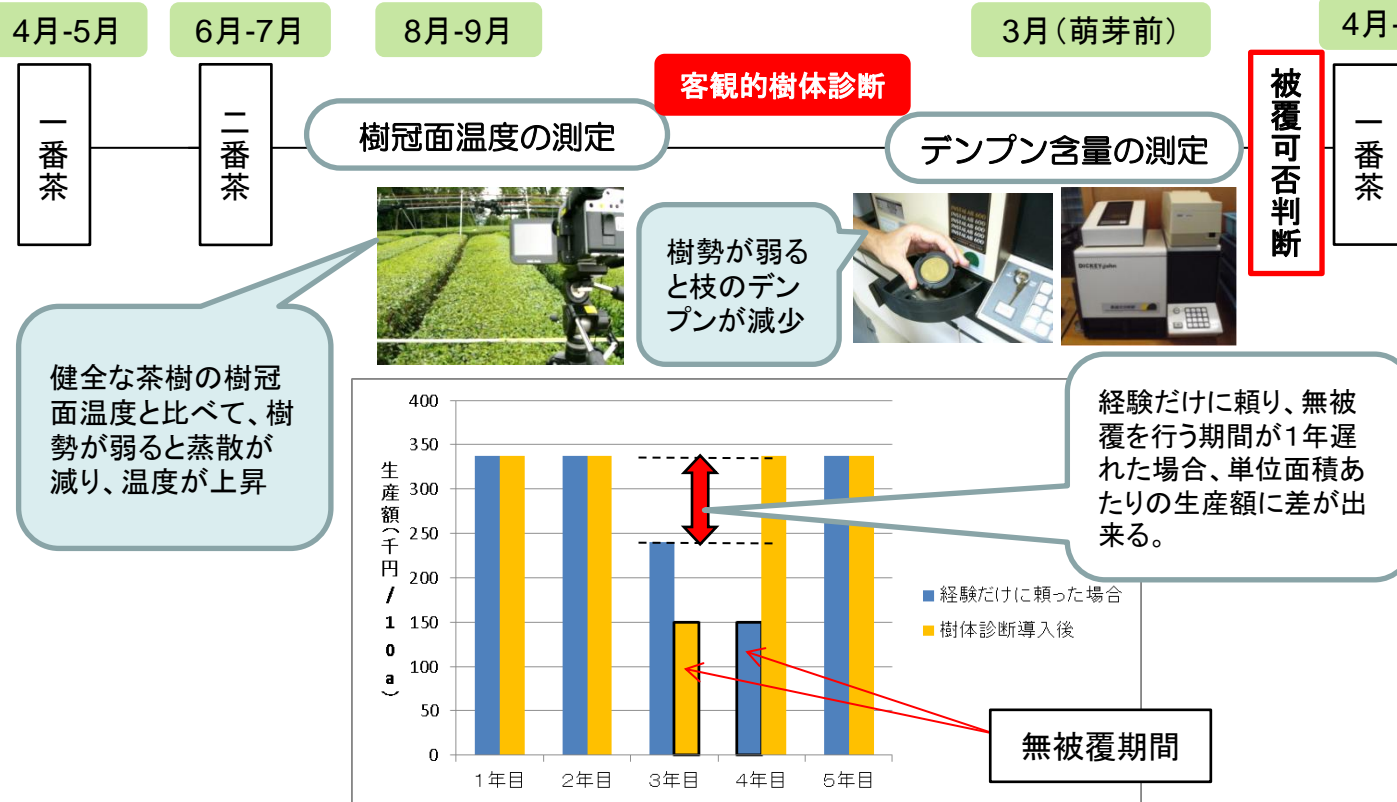


茶園の樹冠面温度とデンプン含量の測定により 一番茶被覆の可否判断が可能 (農林センター)

てん茶栽培では被覆を掛けますが、毎年被覆を続けると樹が弱ります。無被覆期間を設ける判断について、樹冠面温度とデンプン含量を基準とする診断技術確立しました。てん茶の増収と安定生産が期待できます。

背景 てん茶(抹茶の原料)生産者(800戸、生産面積約550ha)は、一番茶に加え二番茶も被覆を行うため、樹勢が弱り、毎年被覆すると翌年の一番茶収量が低下する。無被覆期間を設けるかは、茶農家の経験や勘に基づく判断で行っている。

課題等 被覆の実施について樹勢に応じた、客観的な基準がないため、無被覆期間を的確に設けることができていない。



研究成果

- ・ 下記の2つの条件を満たした場合、無被覆栽培を行うことで樹勢が回復。
- ・ 夏期晴天時の樹冠面温度が日陰樹冠面温度や気温から推定した基準の温度より高い場合。
- ・ デンプン含量が萌芽前太枝で低い値の場合。

⇒ 5年で10aあたり97千円の生産額向上。全体で年間107百万円の生産額向上

■ 現状	■ 樹体診断導入後(3年目に無被覆実施)	途中で無被覆栽培し、樹勢を回復させるため、5年間での金額を計算
1年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	1年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	B-A=97.5(千円)
2年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	2年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	97.5(千円)/10(a) × 55,000(a)
3年目 400kg × 4,000円/kg × 0.15 = 240千円	3年目 500kg × 2,000円/kg × 0.15 = 150千円	= 536,250(千円)
4年目 500kg × 2,000円/kg × 0.15 = 150千円	4年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	1年換算で
5年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	5年目 500kg × 4,500円/kg × 0.15 = 337.5千円	536,250(千円)/5(年) = 107,250(千円)
計1,402.5千円...A	計1,500千円...B	

今後の展開 マニュアルを作成し、普及センターや農協を通じて速やかに生産者に普及・指導を行います。